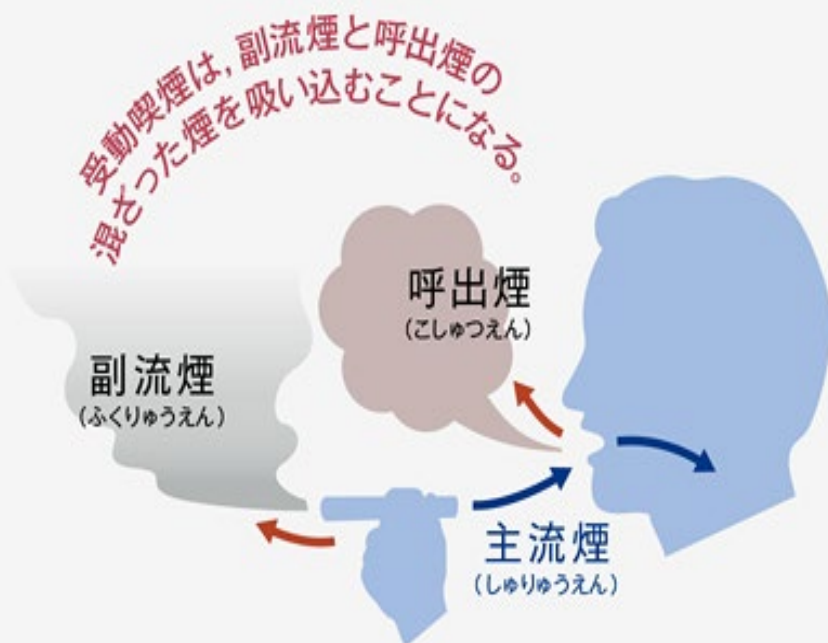


より医学的に喫煙を知ろう！

タバコ煙の成分について・・・1



東北文化学園大学 健康管理センター保健室 2019年 4月発行 Ver. 17



ニコチン依存症は、確実に病気で治療が必要です。専門医のいる禁煙外来を受診するほかに、自分で禁煙するための補助として、薬局で購入可能なニコチンパッチやニコチンガムもあります。大学保健室では、ニコチン依存症のスクリーニングテストを受けることができます。必要に応じて、**お試し用のニコチンパッチも差し上げます**ので、是非相談に来てください。

～タバコ煙に含まれる成分～

タバコ煙は、喫煙者が吸煙する「**主流煙**」、主流煙の一部が生体に吸収された後に吐出される「**呼出煙**」、自然燃焼時にタバコの先端から発生する「**副流煙**」の3種類に区別される。

タバコ煙には粒子相、ガス相あわせて 5,300種類以上の化学物質が含まれ、70種類以上は発がん物質として世界保健機構（WHO）の国際がん研究機関（IARC）によって同定されている。

そのうち、各種疾患を発症・増悪させる代表的な物質を下記紹介する。

- a. **ニコチン**・・・不正脈・糖尿病の症状悪化、胃腸障害が起こる。
- b. **ニトロソアミン類**・・・肺繊維がんなどの発がん性物質が含まれる。
- c. **活性酵素**・・・がん化を誘発する。動脈硬化や皮膚のしわや骨粗鬆症を発生させる。
- d. **多環芳香族炭化水素類**・・・発がんの発端となる遺伝子変異を引き起こす。
- e. **ダイオキシン類**・・・発がん性がある他、生体に影響を及ぼす環境ホルモンである。
- f. **一酸化炭素**・・・虚血性心疾患や不整脈が起こりやすく、血栓が形成されやすくなる。
- g. **ホルムアルデヒド**・・・発がん性がある他、気管支喘息の発症・増悪を引き起こす。 etc・・・



禁煙相談希望の方は1号館2階 大学保健室に来てくださいね。